

平成28年度 第2回

「新しい東北」交流会in釜石

地域コミュニティ活性化 最新事例の共有と交流

復興庁は、「新しい東北」の実現に向けて、官民連携をより一層推進するため、「地域コミュニティ活性化」の最新事例の共有、参加者間の交流などをテーマとした「新しい東北」交流会を実施します。全国からさまざまなノウハウをもったゲストを釜石に招き、復興・創生に携わる方々、さらには高校生やお子様連れのお客様も気軽に参加できる企画を実施し、新たな連携を生み出すことを目指します。

交流会日程

参加無料

(映画上映会のみ有料)

日 程

2016年12月17日(土)

時 間

13:00～(開場12:30～)

※一部の企画は11:00又は12:00から開始します。

場 所

釜石情報交流センター
〔岩手県釜石市大町1-1-10〕

対 象

どなたでも参加できます。

※プログラムの一部は高校生限定です。

※18時からのプログラムは映画上映があるため、有料です。



(JR釜石線「釜石駅」から徒歩約15分)

会場案内

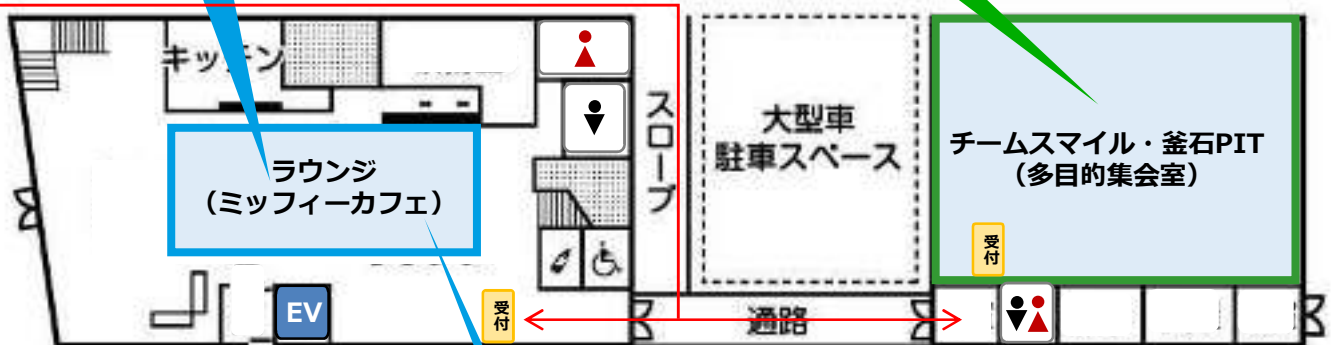
会場 1 階

ラウンジ (ミッフィーカフェ)

・交流、試食、トークセッション **p.7**
東北と熊本をつなぐローカルメディアの輪

チームスマイル釜石PIT

・パネルディスカッション **p.3**
・ピッチ大会 **p.4**
・懇親会 **p.4**
・シンポジウム及び映画上映 **p.5**
地域コミュニティの記憶を次代に生かす新潮流



ラウンジ

・ワークショップ及びデモンストレーション
テクノロジーを体験！親子で遊ぶ魔法の
ようなプロダクト **p.6**

チームスマイル・釜石PIT
(多目的集会室)

会場 2 階



会議室 1・2

・セミナー及びワークショップ **p.6**
地域でクリエイティブに働く事例を学ぼう！

会議室 1・2

タイムテーブル

	チームスマイル・釜石PIT (多目的集会室)	2F 会議室 1・2	1F ラウンジ・ミッフィーカフェ
11:00			
12:00			
13:00	開会 13:00	「地域でクリエイティブに働く 事例を学ぼう！」 (セミナー及びワークショップ) 11:00-14:30 ※高校生限定	「東北と熊本をつなぐ ローカルメディアの輪」 (トークセッション) 12:00-13:00 (～14:00 試食イベント実施)
14:00	「東北が目指すコミュニティとは何か？」 (パネルディスカッション) 13:10-14:30		「テクノロジーを体感！ 親子で遊ぶ魔法の ようなプロダクト」 (ワークショップ及び デモンストレーション) 12:00-15:30
15:00	「地域コミュニティの活性化の取組の紹介」 (ピッチ大会)		
16:00	14:40-16:20		
17:00	懇親会 16:30-17:00		
18:00			
19:00	「コミュニティの記憶を次代に生かす新潮流」 (シンポジウム及び映画上映)		
20:00	18:00-21:00		
21:00			

【会場のご注意事項・ご案内】

- ※ ご来場時は、釜石PITでの企画に参加される方は釜石PIT内「受付」
に、それ以外の企画に参加される方は会場1階ラウンジ入口「受付」
にお越しください。
- ※ アンケートをお配りしていますので、ご協力をお願いします。
- ※ 当日クロークのご用意がございません。
- ※ 貴重品の管理は各自をお願いします。

- ※ 冷水をセルフサービスでご利用いただけます。(PIT会場内のみ)
- ※ ゴミは各自でお持ち帰りください。
- ※ 会場内は全館禁煙となります。
- ※ 会場内で撮影された映像・写真は公開される可能性があります。
- ※ 本交流会はマスコミオープンです。

パネルディスカッション

～東北が目指す地域コミュニティとは何か？～

13:10-14:30

被災地をはじめ、全国各地で「地域コミュニティ活性化」に取り組む専門家が登壇し、最新事例を紹介するとともに、今後の東北が目指す地域コミュニティの方向性や、少子高齢化時代における地域コミュニティ活性化の在り方について議論を行います。

- ◆[事例紹介] 地域コミュニティの形成支援 ・釜石での取り組み事例 ・陸前高田などでの取り組み事例
- ◆[ディスカッション 1] 東北が目指す地域コミュニティとはなにか？
- ◆[ディスカッション 2] 東北から全国へ、少子高齢化時代の地域コミュニティ活性化

ファシリテーター



釜石リージョナルコーディネーター協議会（釜援隊） 二宮 雄岳 氏

【プロフィール】

神奈川県で金融機関に20年以上勤務した後、釜石市の復興や地域振興を支援する釜石リージョナルコーディネーター（通称：釜援隊）の第3期隊員として平成26年から参加。マネジメントとして隊員の目標設定や進捗管理などのサポートを行いながら、東部・平田地区のコミュニティ形成支援や、平成27年度「新しい東北」先導モデル事業「子どもから高齢者までを包摂する地域包括ケアの住民レベルでの実践」等の現場プロジェクトを担当。現在は地元商店街との協働による中心市街地の賑わい再建、釜石市の「ご近所支え合い復興事業」等に取り組む。

パネリスト

社会福祉法人釜石市社会福祉協議会 地域福祉課長 兼 生活ご安心センター副センター長 菊池 亮 氏



ボランティア振興や福祉教育等の社会事業に取り組む傍ら、高齢者や子育て支援系の委託事業を担当。
また介護保険制度の創設に伴い各事業所の立ち上げに取り組み「措置から契約」への移行期に対応する。
東日本大震災津波以降は、被災者支援活動に専心し、災害ボランティアセンターの運営、生活支援相談員活動・地域コミュニティの再生支援活動に取り組む。
地域福祉の実践を基とした復興町づくりに挑戦中。

岩手大学三陸復興・地域創生推進機構 地域コミュニティ再建支援班 特任研究員 船戸 義和 氏



米国の大学院で非営利団体の運営を学び、震災後の2年間はNGO職員として仮設住宅等のコミュニティ形成を支援。仮設住宅の住民が主体的に運営する農園「友結（ゆうゆう）ファーム」等のプロジェクトを展開。
現在は災害公営住宅を中心に沿岸各地で地域コミュニティづくりに関わる。

独立行政法人都市再生機構 岩手震災復興支援本部住宅整備部 住宅計画チーム 岡本 佳久 氏



大学4年生のときに東日本大震災のボランティア活動に従事。
大学院で建築を学んだ後に、復興に携わる仕事がしたいとUR都市機構に入社。岩手県大船渡市での市営住宅を担当し、住民と共に花壇を整備するなどのプロジェクトを担当。

千葉大学大学院園芸学研究科 准教授 秋田 典子 氏



東京大学大学院工学系研究科で都市工学を専攻し博士課程を修了後、東京大学国際都市再生研究センター特任研究員などを経て2008年12月より現職。専門分野は土地利用や緑地環境管理、環境マネジメント。

ピッチ大会 ～地域コミュニティ活性化の取組の紹介～

被災地をはじめ、全国各地で「地域コミュニティ活性化」に取り組んでいる方々から取組発表を行います。

発表者



＜岩手県＞ 特定非営利活動法人カリタス釜石 千田 榮 氏

2013年より、特定非営利活動法人カリタス釜石スタッフ。釜石市の復興活動に携わる。特に地域サロン、イベント等地域コミュニティの復興・創生に取り組んでいる。



高橋 和也 氏
2014年より、特定非営利活動法人カリタス釜石に入る。釜石市の復興活動に携わる。ボランティアの受け入れ、仮設住宅や復興住宅でのサロン活動やイベントなどを主に行う。



＜岩手県＞ 地域支援団体 釜石支援センター望 代表・センター長 海老原 祐治 氏

2011年6月、日本聖公会（キリスト教）職員として釜石で支援活動開始。同年9月、日本聖公会釜石被災者支援センター設立、センター長に就任。2013年10月釜石支援センター望を市民と設立、代表就任。以降月間15～20か所の仮設・復興住宅・地域で月間30～40のサロン・イベントなどを実施。



＜宮城県＞ 一般社団法人 日本カーシェアリング協会 代表理事 吉澤 武彦 氏

立命館大学政策学科を卒業後、6年間広告代理店に勤務。退社後、本格的に社会活動に従事し始め、平和や環境に関する様々なプロジェクトに取り組む。震災後、一般社団法人日本カーシェアリング協会を設立し石巻で取組を続ける。



＜岡山県＞ 酒うらら 店主 道前 理緒 氏

学生時代に訪れた酒蔵で日本酒の魅力にはまり、他分野に就職するも酒好きはとどまるところを知らず、日本酒のおいしさ、造り手の心意気を伝えたい、飲んでいる場合ではない、と決心し3年前に酒屋を開業。日本酒普及のため、お酒で地域を盛り上げるために出張日本酒バーも各地で開催する。



＜神奈川県＞
タイムカプセル株式会社
代表取締役 相澤 謙一郎 氏
300本以上のスマホアプリの開発にたずさわり、累計のアプリダウンロード数は1,000万を超える。初期のヒット作『ちゃぶ台返し』の他、『あべぴょん』などが好評を博す。県立岐阜商業高等学校、尚美ミュージックカレッジ専門学校にてアプリ開発の講師を担当。共著「これからの自治体産業政策－都市が育む人材と仕事－」



＜宮城県＞
東松島食べる通信
編集長 太田 将司 氏
東松島あんでなしよつぷ まちんど 番頭
1973年、千葉県生まれ。宮城県東松島市在住。インテリアショップ「アクタス」勤務などを経て、2011年11月に東松島市へ移住。12年1月より「東松島あんでなしよつぷ まちんど」勤務。14年8月『東松島食べる通信』創刊。



＜岩手県＞
大槌食べる通信
編集長 吉野 和也 氏
2011年4月に勤めていた東京の会社を退職し、同年5月より岩手県大槌町にて震災支援活動を始め、大槌復興刺し子プロジェクトを立ち上げる。現在は持続可能な地域を実現するために、一次産業の生産者と消費者をつなぎ、都市と地方の循環を目的として、「大槌食べる通信」を発行している。



＜熊本県＞
くまもと食べる通信
代表 林 信吾 氏
新卒にて国内最大級の経営コンサルティング会社（株）船井総合研究所に入社。環境エネルギー・一次産業、建設業などの分野・業種を中心に、全国各地の中小企業を中心として、上場企業、学校法人等の経営コンサルティングに従事。2016年より株式会社Eを立ち上げ、代表取締役に就任。その他、NPO法人 環境ネットワークくまもと理事。

懇親会（参加無料）

16:30-17:00

各企画のご登壇者をはじめとする来場者の皆様との交流の場を設けております。ぜひご参加ください。

シンポジウム及び映画上映

18:00-21:00

～地域コミュニティの記憶を次代に生かす新潮流～

※参加費 500円/人

地域コミュニティの維持のためには、地域で育まれた文化の継承が重要な要素です。被災地において地域の記憶を次代に生かす形でどう継承していくのか、地域を活性化しながら世代間で継承していくモデルはあるのかという課題に焦点をあてて考えます。

映画上映会

18:00-20:10

この世界の片隅に

～STORY～

18歳のすずさんに、突然縁談がもちあがる。良いも悪いも決められないまま話は進み、1944（昭和19）年2月、すずさんは呉へとお嫁にやって来る。

呉はそのころ日本海軍の一大拠点で、軍港の街として栄え、世界最大の戦艦と謳われた「大和」も呉を母港としていた。見知らぬ土地で、海軍勤務の文官・北條周作の妻となったすずさんの日々が始まった。夫の両親は優しく、義姉の径子は厳しく、その娘の晴美はおっとりしてかわいらしい。隣保班の知多さん、刈谷さん、堂本さんも個性的だ。配給物資がだんだん減っていく中でも、すずさんは工夫を凝らして食卓をにぎわせ、衣服を作り直し、時には好きな絵を描き、毎日のくらしを積み重ねていく。

ある時、道に迷い遊郭に迷い込んだすずさんは、遊女のリンと出会う。またある時は、重巡洋艦「青葉」の水兵となった小学校の同級生・水原哲が現れ、すずさんも夫の周作も複雑な想いを抱える。

1945（昭和20）年3月。呉は、空を埋め尽くすほどの数の艦載機による空襲にさらされ、すずさんが大切にしていたものが失われていく。それでも毎日は続く。そして、昭和20年の夏がやってくる――。（出典：映画「この世界の片隅に」公式サイト）



©この史代・双葉社／「この世界の片隅に」製作委員会

上映会申し込み方法

上映会お申込みご希望の方は、以下の内容をご確認のうえご参加ください。

～整理券対応方法～

・参加費 500円

・座席準備数 140席（当日受付枠80席）

※当日受付枠は、各プログラム参加者優先で整理券を配布いたします。

※各プログラムの整理券配布数には限りがございますので予めご了承ください。

～各会場配布予定枚数・時間～

10:30～	会議室 1・2 ワークショップ	20枚配布予定 ※高校生限定
11:30～	ラウンジ	40枚配布予定
12:30～	釜石PIT	20枚配布予定

シンポジウム

20:10-21:00

モデレーター



タイムカプセル株式会社

代表取締役 相澤 謙一郎 氏

300本以上のスマホアプリの開発にたずさわり、累計のアプリダウンロード数は1,000万を超える。初期のヒット作『ちゃぶ台返し』の他、『あべびょん』などが好評を博す。県立岐阜商業高等学校、尚美ミュージックカレッジ専門学校にてアプリ開発の講師を担当。共著「これからの自治体産業政策－都市が育む人材と仕事－」

発表者



アニメーション映画監督

片瀬 須直 氏

1960年生まれ。日大芸術学部映画学科在学中から宮崎駿監督作品『名探偵ホームズ』に脚本家として参加。『魔女の宅急便』（89）では演出補を務めた。TVシリーズ『名犬ラッシー』（96）で監督デビュー。その後、長編『アリーテ姫』（01）を監督。TVシリーズ『BLACK LAGOON』（06）の監督・シリーズ構成・脚本。2009年には昭和30年代の山口県防府市に暮らす少女・新子の物語を描いた『マイマイ新子と千年の魔法』を監督。またNHK復興支援ソング『花は咲く』のアニメ版（13）では、この史代とタッグを組み多くの人に感動を届けた。現在公開中の『この世界の片隅に』（監督・脚本）は、SNSの口コミにより評判が広がり、大ヒットを記録している。



アニメーションプロデューサー

丸山 正雄 氏

『この世界の片隅に』企画プロデューサー。1965年に虫プロダクションに入社後、アニメ制作会社「マッド・ハウス」を設立。現・MAPPA代表取締役会長。宮城県塩竈市出身、日本のアニメ業界の黎明期からプロデューサーとして活躍している。

2階 会議室 1・2

セミナー及びワークショップ ～地域でクリエイティブに働く事例を学ぼう！～ ※高校生限定

11:00-14:30

地域コミュニティが継続するための重要な要素として、若年層の定着があります。若い世代が就労後も地域に残っていくために、多様な働き方ができる場づくりの事例として、ITを通じて地域から世界レベルのサービス、作品を発表している企業を紹介し、高校生を中心に新たな働き方のロールモデルを学ぶ交流イベントを開催します。

ファシリテーター



株式会社BUTTON

代表取締役 浦谷 和生 氏

1981年生まれ。大学卒業後、制作会社2社を経て、STARRYWORKSに参加。大手企業のウェブサイトやインストール制作を担当しながら、PLAYFUL BOOKSなど子ども向けの自社サービスの企画・開発に注力。2016年7月にはグループ会社として、「子どもたちとの新しい関わり方」を作る会社、BUTTON INC.を設立。2児の父親としても奮闘中。

1階 ラウンジ

ワークショップ及びデモンストレーション（2回開催） ～テクノロジーを体感！ 親子で遊ぶ魔法のようなプロダクト～

12:00-15:30

地域発で活躍しているIT企業のサービス事例として、こどもが楽しめる絵本や楽器の体験型ITゲームの実演を開催します。

①ワークショップ：PLAYFUL BOOKS まほうのえほんづくり（定員5組で2回開催）

PLAYFUL BOOKS まほうのえほんキットを使ったえほん作りワークショップです。「まほうのえほん」は、ページにあわせて音や光の色がかわるふしぎな絵本。まっしろな絵本に自分で絵をかいいたら、iPhoneの専用アプリをつかってページごとに演出をつけてみよう。絵にあわせて音を録音したり、光の色をえらんだら、世界にひとつだけの「まほうのえほん」のできあがり。親子で物語をついたり、

音つき絵日記をついたり、メッセージをこめて誰かにプレゼントしたり...使い方は無限大！

みんなの想像力で、世界にひとつだけの特別なえほんをつくりませんか？

完成したえほんはお持ち帰りできます。

全体で10組の参加枠のため、当日、各回の30分前より、先着順で受け付けます。

参加人数：1回5組（対象年齢 3～10歳の子どもの保護者）

所要時間：1回あたり90分

ファシリテーター



株式会社BUTTON アートディレクター 木富 慎介 氏

1982年生まれ。イラストレーター／アートディレクター

主な仕事は広告や雑誌、音楽CDなどのイラストレーション、デザイン。

作品例：ウェブ絵本「アリクイのサラリーマンたち」、PLAYFULBOOKS「くれよんのかくれんぼ」

①12:00-13:30

②14:00-15:30

PLAYFUL BOOKS
まほうのえほんづくり
ワークショップ



②デモ・展示：PLAYFUL BOOKS（完成版） 12:00-15:30

PLAYFUL BOOKS 2タイトル（くれよんのかくれんぼ / こんこん）を展示します。

どなたでも自由にお試しすることができます。



③デモ・展示：クラフトがっき（株式会社ココノエと共同開発） 12:00-15:30

クラフトがっきは、紙に導電性インクのペンで絵を描き、専用デバイスに挟んでアプリと接続すると、イラストが楽器になるというプロダクト。

イラストと音楽を連携した絵遊びが可能です。どなたでも自由にお試しすることができます。

クラフトがっき



1 階 ラウンジ ミッフィーカフェ

交流、試食、トークセッション ～東北と熊本をつなぐローカルメディアの輪～

12:00-14:00

東北から始まり、全国で30誌以上が展開される「食べる通信」の事例をもとに、食材付き情報誌というモデルで自走するローカルメディアの展開と、農家や漁師といった生産者と都会の消費者のつながりを創出する最前線のノウハウを共有し、メディアを活用した地域コミュニティの活性化のヒントを参加者と共に探っていきます。

トークセッション

12:00-13:00

講演者



東松島食べる通信

編集長 太田 将司 氏

東松島あんでなしよっぶ
まちんど 番頭
1973年、千葉県生まれ。宮城県東松島市在住。インテリアショップ「アクタス」勤務などを経て、2011年11月に東松島市へ移住。12年1月より「東松島あんでなしよっぶ まちんど」勤務。14年8月『東松島食べる通信』創刊。



大槌食べる通信

編集長 吉野 和也 氏

2011年4月に勤めていた東京の会社を退職し、同年5月より岩手県大槌町にて震災支援活動を始め、大槌復興刺し子プロジェクトを立ち上げる。現在は持続可能な地域を実現するために、一次産業の生産者と消費者をつなぎ、都市と地方の循環を目的として、「大槌食べる通信」を発行している。



くまもと食べる通信

代表 林 信吾 氏

新卒にて国内最大級の経営コンサルティング会社（株）船井総合研究所に入社。環境エネルギー・一次産業、建設業などの分野・業種を中心に、全国各地の中小企業を中心として、上場企業、学校法人等の経営コンサルティングに従事。2016年より株式会社Eを立ち上げ、代表取締役就任。その他、NPO法人 環境ネットワークくまもとと理事。

※トークセッションは、当日11:30より、先着順で受け付けます。（25名予定）

試食

くまもと食材一品の試食イベントを同時に開催。
ミッフィーカフェにて一品を注文頂くと、「宝石とまと」をご提供。
※お一人様に5粒程度提供予定です。
※食材が無くなり次第、終了します。



「新しい東北」官民連携推進協議会からのお知らせ

✓ 協議会ウェブサイトへの掲載情報募集中！

新しい東北

検索

協議会では、協議会ウェブサイトに掲載する情報を随時募集しています。復興に関する支援制度、復興支援活動、イベント情報のご紹介など、皆様の情報をお寄せください。

✓ 会員情報のプレスリリースを実施中！

会員の皆様から寄せられた支援制度、イベント情報、調査結果・研究結果の発表等の活動情報を、協議会からプレスリリースします。情報は随時受け付けておりますので、ご希望があれば事務局まで御連絡ください。

✓ Facebookで情報発信中 (<https://www.facebook.com/newtohoku/>)

Facebookでも、協議会の活動情報や、復興庁・会員の皆様の支援制度、イベント情報等を発信しています。ぜひ「いいね！」をお願いいたします。



連携支援制度（勉強会等の開催支援）受付中

連携支援制度は、会員が他団体と連携して取り組むワークショップ等の開催経費の一部を協議会として支援する制度です（支援額は20万円を上限）。

◆支援対象経費 賃借料（開催会場の使用料金）、報償費（講師等の旅費・謝礼）
先進地までの交通費

募集状況・申請要件等については協議会ウェブサイトをご確認ください。

連携セミナー制度（交流会等の開催支援）実施中

連携セミナー制度は、会員が、参加者間の連携促進・交流を目的として主催するセミナー等の開催経費の一部を協議会として支援する制度です（支援額は50万円を上限）。

◆支援対象経費 賃借料（開催会場の使用料金）、報償費（講師等の旅費・謝礼）

募集状況・申請要件等については協議会ウェブサイトをご確認ください。

お問合せ先

「新しい東北」官民連携推進協議会事務局（みずほ総合研究所株式会社内）担当：山口、塚越、重田

E-mail: nt-info@mizuho-ri.co.jp

TEL: 03-3591-8773（受付時間：9時30分～17時30分 土日祝除く）

WEBサイト: <http://www.newtohoku.org/> Facebook: <https://www.facebook.com/newtohoku>

*「新しい東北」交流会に関するお問い合わせは下記にお願いします。

「新しい東北」交流会事務局（株式会社JTBCコーポレートセールス 東京中央支店内）担当 西田、安海（あずみ）

E-mail: nt-info@bwt.jtb.jp

TEL: 03-6737-9292（受付時間：9時30分～17時30分 土日祝除く）

※当協議会の運営についてはみずほ総合研究所株式会社が、当交流会の事務局運営については株式会社JTBCコーポレートセールスが受託しております。

新
し
い 東北



新たなステージ 復興・創生へ



Facebook公式アカウント開設
www.facebook.com/Fukkocho.JAPAN/